

2017 年度 一食福島復興・被災者支援 助成事業一覧

団体名/活動拠点	申請事業名	申請内容
特定非営利活動法人ふくしま30年プロジェクト (福島市)	放射能に不安を持つ子育て世代の食と健康の知識向上と、国内外への情報発信による長期活動基盤整備	①医師による研修会および食のワークショップ(年7回) ②パンフレット制作(和文・英文)
特定非営利活動法人福島県有機農業ネットワーク (二本松市)	ふくしま農と食の学校事業	県内や首都圏の都市住民が、福島県の農業の現場を訪れて農作業、加工などを体験し農家と交流することで、農業と食の価値および福島県の現状を理解してもらう。 県内の特徴ある農産物を生産する農家に、10名程度の農業体験希望者を派遣し、年間4回、同じ農家で同じ作物の栽培から加工、消費までを体験する。それぞれの作物の名前を冠して、〇〇の学校とする。またその総括として首都圏にて3月に合同交流会を開催する。
一般社団法人みんなの手(京都府)	関西の避難者の心のケアと自立に向けたサポート事業	京都に住む福島県からの避難者の心のケアと自立に向けたサポートを行う。 ① 情報発信(ニュースレターやHPを通じて)不動産関連の専門家やキャリアカウンセラーやカウンセラーの連続コラムを掲載し、実施ワークショップやイベントの案内する。 ② 住宅や仕事や心の悩みカウンセリング(個別・団体) ③ 住まい探しワークショップやツアー ④ 心のケアワークショップ ⑤ キャリア探しワークショップ
子育てポピークラブ(いわき市)	東日本大震災被災地での子育て不安を解消するための広場の開催	子育て家庭の「つどいの広場」を開催し次の事業を行う。 ① 母親たちが元気を回復し、楽しく子育てのできる事業 ② 地域の中で多世代が交流でき、子育てに参加することで生きがいの感じられる環境づくり事業 ③ 孤立して子育てしている母親たちへのサポート事業
やさいのラボ (二本松市)	阿武隈中山間部で農業や地域の仕事に従事する若者のネットワーク構築と情報発信を核としたコミュニティ活性化事業	活動①フリーペーパー「みんなのきもち」震災原発事故7年の軌跡 活動②地域の中でリーダーを育てる研修や勉強会 活動③新たなコミュニティ組織のweb制作

<p>特定非営利活動法人市民科学研究所 (東京都)</p>	<p>福島県からの避難を理解するための福島県外での子ども向け放射線リテラシーワークショップの実施</p>	<p>子どもの放射能リテラシーワークショップ・ハンドブック『みらいへのとびら』の補遺となる学習内容を作成し、対話型の授業として、世田谷区と文京区の各々2校そして1校で実施する。こうした授業の結果をもとに、『みらいへのとびら』県外編補遺を小冊子として1000部作成する。そして、この県外事業を関東圏の志のある小中高の教員たちに広く知らせるために、県外編補遺の小冊子を用いて授業実践の報告を、日本科学未来館の協力のもと開催する、シンポジウム「今後の放射線教育を考える」(仮題)において行い、この事業の普及と拡張の契機とする。避難者の置かれた状況を把握する上では、これまで協力関係を築いてきた「ビーンズふくしま」や「ふくしま地球市民発信所」と連携し、全国の広域避難者を支援するネットワークを通じて、各地でワークショップの開催も働きかける。</p>
<p>特定非営利活動法人福島やさい畑～復興プロジェクト (二本松市)</p>	<p>被災者を孤独にしない活動</p>	<p>仮設に残っている被災者と復興公営住宅に移転した被災者を訪問し、食事会や買い物支援やエコクラフト手芸等のイベントを行う。 (ア) 支援野菜の無料配布と野菜の移動販売を実施。 二本松市の仮設5カ所に週1回。 (イ) 支援野菜の無料配布を実施。 南相馬の仮設5カ所に月1回。 (ウ) エコクラフト手芸教室 仮設で月2回 (エ) イベント(食事会、お茶会等) 復興公営住宅で月1回</p>
<p>特定非営利活動法人元気になるう福島(福島市)</p>	<p>福島県南相馬市小高区・浪江町・田村市、農業復興サポート事業</p>	<p>原発事故で疲弊した福島県の農業の復興を推し進める為、バイオエネルギーなどの資源作物を耕作したりIT農業を推進し、農家さんの所得を高め、若い人材の農業参入を後押しする、それぞれの専門家による勉強会を実施する。中山間地の農業支援として、「エゴマブランディング」を進める。田村市船引町発祥の「エゴマ油」の生産加工を後押し、今まで使わなかった搾油後のエゴマパウダーやエゴマの葉などの活用を進める。これらエゴマの商品開発に関する勉強会を実施する。</p>
<p>はみんぐBird (郡山市)</p>	<p>～レジリエンスプロジェクト～心の復活力を高める対話とワークショップを通して新しい福島のコミュニティを創造する</p>	<p>福島県郡山市を中心にした、母親の自助グループの活動。互いの違いや多様な背景を大事にする“対話の場”「てととと会」や、心を解放し自己肯定感を上げるワークショップ、お母さんが出来る自然なお手当や学びを通して、心と体が健やかに育児と自分を立て直すセルフケアを身につけ困難な状況下に於いても個人の復活力が向上する事で、震災後のコミュニティの復活力も向上し新しい福島のコミュニティの創造に繋げる。</p>